

銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 30 年 4 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

4 月	2 日	～	760 円/Kg
4 月	6 日	～	770 円/Kg
4 月	11 日	～	790 円/Kg
4 月	13 日	～	770 円/kg
4 月	19 日	～	790 円/kg
4 月	25 日	～	800 円/kg

平成 30 年 4 月度は平均で 778.50 円/kg となり、前月比 12.80 円/kg の値上りとなりました。

海外銅価の動き

- ① 4 月の LME 銅相場 4/3 ～ 4/27 (安値ドル 6,618.50～6,987.00 高値ドル)
4 月の NYC 銅相場 4/2 ～ 4/27 (安値セント 300.70～315.35 高値セント)

2018 年 4 月度の LME 現物は、4/3 \$6,756.00 でスタート。中国国家統計局が 3/31 に発表した製造業の購買担当者景況指数 (PMI) が前月を上回る堅調な内容であったことや、米中の貿易摩擦を巡る懸念はいずれ弱まるとの見方が支援要因となった模様。また、4/5 に発表された米貿易赤字は 9 年 4 か月ぶりの高水準となったものの、対中赤字については 18.6% 減と落ち込んでおり、この様なことも懸念の後退につながったと考えられる。中国の経済状況については、GDP (国内総生産) は前年同期比 6.8% 増と予想を上回ったが鉱工業生産は前年同月比 6.0% と 7 か月ぶりの低い伸びにとどまるなど、先行き不透明感を拭うには十分とは言えない状況。米中貿易の今後の推移を注視していく必要がある。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 2 月 資料より (単位/千トン)

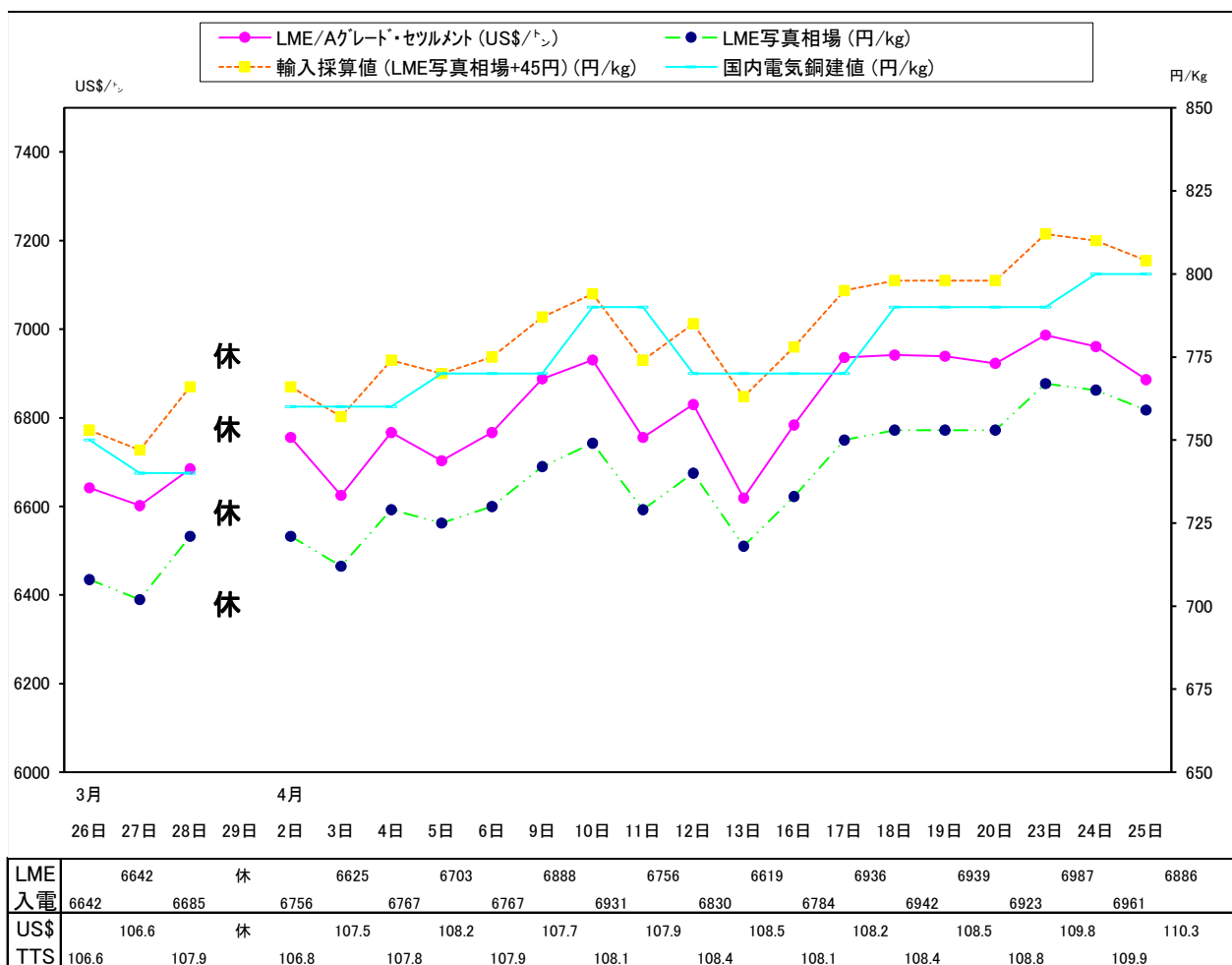
	2015年 実績	2016年 実績	前年比	2017年 予想	前年比	2018年 予想	前年比
全世界地金生産	21,954	22,785	+3.8%	23,008	+1.0%	23,306	+1.3%
全世界地金消費	21,817	22,584	+3.5%	23,059	+2.1%	23,522	+2.0%
全世界需給バランス	+137	+201		-51		-216	

先行き短期見通

国内銅価

4 月度の国内建値は 2 日 760 円/kg でスタート。6 日 770 円、11 日には 790 円と順調に上げる動きとなった。LME の動きと緩やかな円安、在庫もジリジリと減少する動きの中で比較的揺れ動きの少ない銅相場となった。13 日 770 円に下げるも 19 日 790 円に戻し、25 日には 1 月以来の 800 円に。4/26 付 LME \$6,885.50、26 日付 為替 (TTS) 1USD=110.37 円で日本円換算計算値 760 円/kg。2018 年 4 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、800 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年4月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 4月 2日 ~ 397 円/kg
- 4月 10日 ~ 391 円/kg
- 4月 13日 ~ 376 円/kg
- 4月 19日 ~ 400 円/kg

平均393.00円/kg

平成30年4月は上記の通りで前月比 1.40 円/kg の値下げとなりました。

これはLME 亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ 其の他の建値

電気鉛	4月	316.00	円/kg	(前月比±	0.00	円/kg)
電気錫(相対)	4月	3,680.00	円/kg	(前月比-	20.00	円/kg)
ニッケル(溶解用)	4月市中価格	1,700.00	円/kg	~ 1,750.00	円/kg	
銀	3月平均	57,650.00	円/kg	(前月比-	1,630.00	円/kg)
	4月26日	59,760.00	円/kg			
金	3月平均	4,550.67	円/g	(前月比-	102.75	円/g)
	4月26日	4,677.00	円/g			

◎ 伸銅品関係

平成30年3月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		2月度実績	3月度速報	前月比	前年3月度実績	前年同月比
銅	板	1,349	1,328	-1.6%	1,293	2.7%
	条	22,198	23,728	6.9%	24,100	-1.5%
	管	9,039	10,302	14.0%	11,058	-6.8%
	棒	2,295	2,506	9.2%	2,514	-0.3%
	線	285	275	-3.5%	292	-5.8%
黄銅	板	540	647	19.8%	554	16.8%
	条	9,094	9,683	6.5%	9,182	5.5%
	管	653	643	-1.5%	684	-6.0%
	棒	15,815	16,516	4.4%	17,131	-3.6%
	線	2,478	2,819	13.8%	2,713	3.9%
青銅	板	2,743	2,924	6.6%	3,044	-3.9%
	条					
	棒	231	233	0.9%	274	-15.0%
	線	79	70	-11.4%	83	-15.7%
洋白・其の他	板	487	470	-3.5%	479	-1.9%
	条					
	棒	51	44	-13.7%	43	2.3%
	線	434	457	5.3%	443	3.2%
合計		67,771	72,645	7.2%	73,887	-1.7%

3月の伸銅品生産速報は、72,645トンで前月比プラス4,874トン、前年同月比-1.7%となり、前年同月比が5ヶ月ぶりにでマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の18年1月分実績及び18年2月分推定によれば、1月分で増加したのは、自動車、輸出の2部門のみに留まり、建設電販も本格的な需要増には至らず、総計は5万2千947tで前年同月比2.1%減と再び減少した。昨年9～11月は6万t台を確保したが、12月以降の総出荷量はペースダウンし、2月の銅電線出荷推定を見ると、電力が下げ止まりにブレーキが掛かり上向き、自動車が二桁増を確保し、輸出も好調で3部門が伸長して5万5千800tで同0.8%増となる見通し。

一方、1月分の部門別出荷量をみると、マイナスグループは通信、電力、電気機械、建設電販とその他内需の5部門になった。通信はCCPなどが伸び悩んだことが左右し、同18.7%減と3ヶ月連続で下降した。電力は保守メンテが多く、張替需要は鈍化して同18.2%減と大幅に落込んだ。電気機械は機器用電線ケーブルが持ち直しているものの、家電向けなどが鈍化し同1.9%低下し3ヶ月連続での減少となった。建設電販は一部で動くものの、本調子には遠く同2.5%下降し、3ヵ月連続で前年を割込んだ。その他内需は、伸び悩み、息切れし、同4.8%下降した。また、プラスグループは2部門のみに留まった。自動車は生産台数が増加していることから21ヵ月連続で上回り同12.8%増と好調だ。輸出はペースは小さいものの、中東向けなどの電力ケーブル需要が継続し同21.2%増と5ヶ月連続して大きく伸びた。

2018年1月分(実績)・2018年2月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	1月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	2月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	1月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	757	▼ 0.9	▼ 18.7	700	▼ 7.5	▼ 12.4	1,343	(▼3.9)	0.4
電 力	(1,236)	(16.4)	(▼10.5)	(2,000)	(61.8)	(33.3)	1,030	(34.3)	(24.2)
	3,786	21.7	▼ 18.2	4,000	5.7	1.6	4,260	21.5	▼ 8.6
電 気 機 械	(364)	(▼11.7)	(▼0.8)				340	(▼12.6)	(0.6)
	11,578	▼ 6.9	▼ 1.9	12,500	8.0	▼ 0.2	16,057	▼ 4.3	7.6
自 動 車	(73)	(▼19.8)	(4.3)				341	(▼10.7)	(18.0)
	6,375	▼ 9.9	12.8	7,200	12.9	13.9	29,349	▼ 6.0	9.4
建 設・電 販	(16)	(0.0)	(▼48.4)				15	(36.4)	(▼40.0)
	24,815	▼ 11.0	▼ 2.5	26,100	5.2	▼ 1.2	29,961	▼ 9.1	7.6
そ の 他 内 需	(57)	(▼9.5)	(▼28.7)	(600)	(17.6)	(8.5)	57	(3.6)	(▼1.7)
	4,220	▼ 3.2	▼ 4.8	4,100	▼ 2.8	▼ 4.6	6,700	▼ 3.6	9.7
内 需 計	(1,746)	(6.2)	(▼9.5)	(2,600)	(48.9)	(26.6)	1,783	(11.2)	(15.8)
	51,531	▼ 7.4	▼ 2.6	54,600	6.0	0.5	87,670	▼ 5.5	7.3
輸 出	(304)	(5980.0)	(28.3)	(300)	(▼1.3)	(219.1)	145	(866.7)	(0.0)
	1,416	▼ 23.4	21.2	1,200	▼ 15.3	15.8	5,374	▼ 17.3	10.7
合 計	(2,050)	(24.3)	(▼5.4)	(2,900)	(41.5)	(35.1)	1,928	(19.1)	(14.5)
	52,947	▼ 7.9	▼ 2.1	55,800	5.4	0.8	93,045	▼ 6.3	7.5
心 線 販 売	(1,125)	(9.1)	(11.5)	(1,200)	(6.7)	(22.4)	300	(11.5)	(27.1)
	28,052	▼ 2.2	4.4	27,900	▼ 0.5	0.5	21,862	▼ 2.1	22.2

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2018年1月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,488	▼ 14.2	▼ 2.7	3,103	▼ 19.9	9.5	
巻線	10,510	▼ 8.4	2.3	10,798	▼ 7.5	12.0	
機器用電線	3,458	▼ 3.6	4.3	10,272	▼ 1.5	11.7	
通信用電線・ケーブル	1,371	▼ 7.4	▼ 12.1	3,118	▼ 6.1	▼ 2.5	
電力用電線・ケーブル	19,168	▼ 4.6	▼ 5.8	20,371	▼ 3.0	7.3	
被覆線	9,655	▼ 13.8	▼ 3.1	14,229	▼ 9.9	4.1	
輸送用電線	5,297	▼ 5.4	5.4	31,153	▼ 6.2	7.3	
銅電線計	52,947	▼ 7.9	▼ 2.1	93,045	▼ 6.3	7.5	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	65	▼ 5.8	▼ 13.3	225	▼ 5.5	▼ 12.1
	電力用電線・ケーブル、被覆線	3,196	10.6	10.7	3,796	8.8	17.3
	計	3,266	10.2	9.9	4,043	7.8	14.4
アルミ電線計	2,050	24.3	▼ 5.4	1,928	19.1	14.5	
光製品	3,319,359	▼ 8.8	2.8	20,622	▼ 12.7	▼ 6.3	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	3,525	▼ 9.0	▼ 12.6	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

○ 国際アルミニウム地金相場の第1週は、貿易戦争懸念で進んでいたドル安を支えに強気の推移。中国が追加の報復措置として、大豆・自動車などの主要な取引項目に対しての関税計画を発表したことでリスク回避ムードが急速に広まり、非鉄全般が下落でスタート。第2週は、トランプ氏が露新興財閥を対象に制裁措置を発表、対象に露アルミ生産大手のルサールが含まれていることで、供給側の懸念が広がり相場を押し上げる。ルサールの資金繰り懸念が広がる中で、アルミ相場は約6年振りの高値をつける。LMEアルミ在庫が約10万トン増となり、引き続き駆け込み納入が続くとみられる。第3週は、米英仏のシリアへの攻撃で露との緊張が高まる中、アルミ相場は、大幅高となる。ルサールへの制裁の短期解除が見込まれない中で、相場は底堅く展開。ルサールが株式を保有するノリリスク・ニッケルにも供給懸念が広まり、コモディティが買われやすい状況が続く。第4週、米国の対露企業制裁の方針が軟化し、大株主のデリパスカ氏が保有するルサール株式を手放せばルサールへの制裁を緩和することを表明。急速に供給不安が後退しアルミは売り込まれた。引き続き政治次第の状況が続くとみられ、当面は\$2,200前後での展開を予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年4月積 2,613.00～2,610.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年4月積 301.50～301.10 円/kg
- ・NSP 2018年2月 291.6 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年4月～6月 300.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年2月	'18年3月	'17年3月
月生産	*2,160.0	2,382.0	2,343.0
平均日産	*77.1	76.8	75.0

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

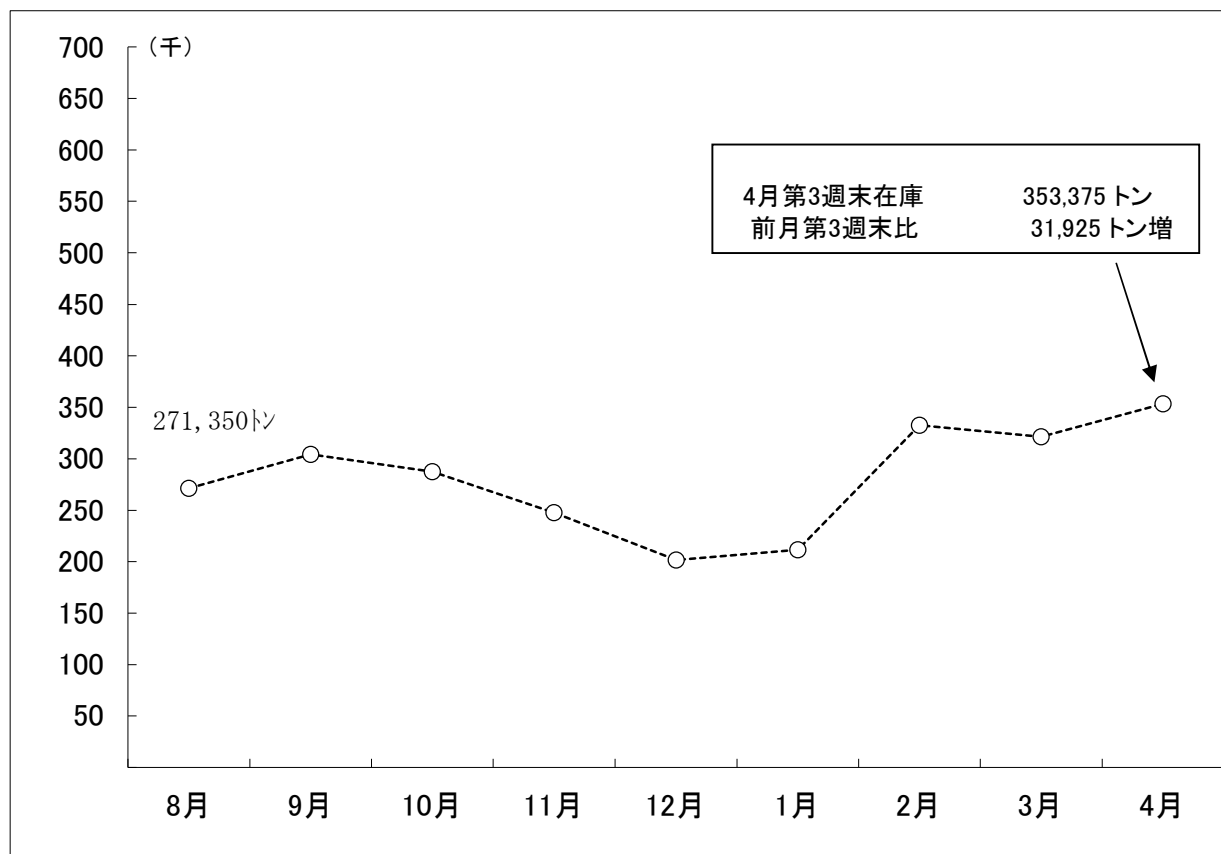
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2017年12月	2018年1月	増減	2017年1月	増減
横浜	115,400	127,000	+11,600	130,500	-3,500
名古屋	111,500	135,100	+23,600	127,600	+7,500
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	241,900	277,100	+35,200	273,100	+4,000

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・ 30年4月20日現在 249,574 S T 前月比 15,899 S T増

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年3月末 98,318 トン 前月比 0 トン

◎ 伸銅品生産実績

・ 30年2月確報 67,771 トン
・ 30年3月速報 72,645 トン 前月比 107.0 %

◎ 電線出荷実績

・ 30年3月速報 59,100 トン 前月比 105.9 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 30年 2月	板 類	99,332 トン	
	押 出 類	63,277 トン	
		162,609 トン	前月比 109.7 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。